

1. 西尾市議会での議場放送収録システムの導入・議会DXの取り組みについて

- ・議場放送の旧システムは平成20年の更新時から10年経過しており、機器改修の必要性があったため、令和2年に更新。
- ・新システムの導入により最も効果を実感できたのは、地元ケーブルテレビ局に委託していた放送収録業務が自前でできるようになり、インターネットによる配信も可能になった。
- ・傍聴者用にモニター設置を設置したが、改修前後の傍聴者数に変化はなかった。一方、傍聴者が頻繁にモニターを見ている様子も確認でき、モニター設置の効果は感じられている。
- ・議会DXの推進により、ペーパーレス化も図られたが、タブレット端末の導入コストや会議システムにかかる費用が高額なため、費用対効果の評価は今後の課題。
- ・議場システムと議員タブレットとの互換性がないため、タブレット画像をモニターに表示する際にはアナログとなる。

【所感】

- ・そもそも10年前後の経過で議場システムの更新が必要になること、システムの変更により放送収録業務やネット配信も業者委託でなく自前で賄えるようになることに驚いた。視覚的には最も変化を感じやすい議場モニターの設置も、議会・執行部の端末との互換性を重視しないと、効果を十分に発揮できないことが確認できた。会議システムの改修費用も様々なオプションがあり、議会運営や執行部との情報共有はもちろんのこと、町民にとって効果が実感できるような更新となるよう、慎重な検討が必要になると感じた。

2. 安城市議会での議会ICTの取り組みと電子採決の運用について

- ・執行部のDX化が先行していたが、議会内にICT推進プロジェクトチーム（PT）をつくり、独自のシステム構築を検討し導入した。
- ・タブレットの導入後は、操作の確認やアプリの活用に慣れるため連日研修を行い、3ヶ月後には議案書や計画書などのペーパーレス化を実現した。一方で、殆どの議員が予算書・決算書は紙媒体での発行を希望しており、議会としては完全なペーパーレス化は目指していない点は西尾市と同様。
- ・安城市議会では議会DXやICT化を進めることで経常費用も圧縮できるとしており、西尾市議会と見解が分かれた。電子採決の導入についても、西尾市議会では起立採決のほうが視覚的優位性が保たれるとしたが、安城市議会では電子採決のほうが解りやすいと判断しており、時の議員構成により一長一短があるとのこと。
- ・オンラインでの委員会審査や一般質問の運用については現在の議運で検討中。

【所感】

- ・議会内にPTを作り、独自で端末やソフトの検討を進めたことから、議員の端末の活用事例が豊富であり、ICT化の効果を実感されていることが伺えた。反面、独自に端末やソフトを選択したため、執行部と議会との情報共有という点で課題が感じられた。議会ICTの導入はペーパーレス化が目的ではないこともあり、西尾市同様、予算書や決算書など数字を追う書類については紙媒体での配布が現実的であることは共通していた。また、安城市議会・西尾市議会ともに市民や傍聴者にとってどのような効果があったかは調査しておらず、箕輪町議会でのICT化の検討の過程では町民の目線で効果が感じられるようなシステム改修となるよう配慮が欠かせないと感じた。